

来春、いよいよ始まる

確認申請の「BIM 図面審査」

(2026年4月1日開始予定)



建築業界の必須スキルとなりゆく“BIM化の波”

3Dモデルから各種図面を自動生成

建築法令にも対応した日本製BIMを体験！

OCT 校友会 ビジネスサロン

「BIM 操作体験講座」

～ 日本製 BIM 建築設計支援システム「GLOOBE」～



参加
無料



法規チェック 確認申請 図面自動生成

プレゼン 実施設計 データ連携

開催日： 2025年 **10月18日(土)**

13:00 ~ 16:00

場 所： 本校 6 号館 621 教室

確認申請にも いよいよ BIM化の波が

来春、申請手続きを効率化する
BIMで作成した図面データによる
新しい確認申請がスタートします。

2029年春には、さらに進めた BIMデータによる
「BIMデータ審査」の開始も予定されており
国交省の指針によると
段階的に BIM を活用した確認申請が推進される予定です。
このような流れから、建築業界において
益々 BIMが必要なスキルとなりゆくことが考えられます。

この度、建築基準法や日本の設計手法にも対応した
日本製の BIM「GLOOBE Architect」の操作体験講座を
開催致します。是非、この機会にご参加下さい。

日本製 BIM建築設計支援システム

「**GLOOBE Architect**

(グローブアーキテクト)」とは？

- ◆日本の設計手法や建築基準法に対応した「日本発の BIMシステム」
- ◆法的規制、外観デザイン、平面計画等の3つの設計アプローチに対応した3次元設計を実現
- ◆自由度の高いデザイン機能やチーム設計への対応
- ◆豊富な日本仕様の建材データなど日本の設計に最適化された設計BIM

- 自動生成による図面の整合性
- 迅速な法規チェック
- 業務の効率化

当校のパソコンでも
ご自身のパソコン持参でも受講頂けます

申込締切： **2025年 9月21日(日)**迄 (定員 20名)

申込方法： 右記、申込フォームよりお申込み下さい。
クリック又は QR コードより →
(メール返信でのお申込みOKです！)

※定員になり次第、締切ます。

Click



お問合せ： OCT 校友会 事務局 担当：大塚
TEL：06-6352-0091 (学校代表番号)
E-mail：kouyukaijim@oct.ac.jp

【ご自身のパソコン持参で受講の方へ】

【パソコンの推奨スペック】

OS： Windows 11 バージョン 24H2
Windows 10 バージョン 22H2
(2022 Update) (64bit)

必要メモリ： 推奨 16.0GB 以上

CPU： Core i7 以上
(※CPUはIntel社製に限ります。)

その他、動作環境 →

Click

日本製 BIM「GLOOBE Architect」の開発社である
福井コンピュータアーキテクト株式会社より
「GLOOBE」BIM専門のインストラクターを当校にお招きし
直接対面式で操作体験講座を行いますので
解らない点など、ご自由にご質問頂けます。



BIM操作が、はじめての方も
既にご使用の方もお気軽にご参加下さい。



受講後は、体験講座マニュアルを
お持ち帰り頂けます

- BIMの3Dモデルがどのようにできるのか
解りやすい操作でモデルデータ作成
- 実務に使える BIM とは何か
- 3Dモデルから 図面の自動生成

日本製 BIM建築設計支援システム

「GLOOBE Architect (グローブアーキテクト)」で何ができる？

法規チェック

法改正にも迅速に対応した、法規チェック機能などを搭載
よりスムーズな確認申請図の作成や確認申請ツールへの連携ができます。
「床面積求積・容積率・建ぺい率」の自動算出
「省エネ計算」
「斜線制限」「天空率」「日影制限」「平均地盤算定図」のチェックと図面の自動生成
「防火区画・防煙区画」区画を囲う柱・壁・建具に対して、耐火・防火性能の自動割り当ても可能
「延焼線」を自動生成し、延焼線内の建具に対し防火設備性能を自動割り当て
「ALVS」の自動計算判定

図面自動生成

提案用のカラーの「配置図」「平面図」「立面図」「断面図」「パース」
実施設計用の「各種詳細図」「矩計図」「展開図」「建具表」「仕上表」等
構造図「梁伏図」「屋上伏図」「基礎伏図」「杭伏図」「底盤伏図」「軸組図」等を自動生成
設計変更も作成済の図面に一括更新できるため、常に図面の整合を確保できます。
また自社仕様のデータを登録しておくだけで、次回以降自社仕様を反映
簡単に短時間で設計して頂くことも可能です。

データ連携

Jw_cad等のCADデータのレイヤ情報から自動で部材を認識し一気に3次元データに自動変換。
変換後のデータは、プレゼンから各種図面作成や法規チェックなどにフル活用可能です。
(JWW/DXF/DWG/SXF)

PDFデータを取込。PDFがCADデータの場合、線データに変換して取り込むことができます。
線データに変換できないものは画像として取り込まれます。

Autodesk社のBIMソフト「Revit」で作成したデータ(ファイル形式：RVT、RFA)を読み込んで
法規チェックや汎用オブジェクトとして利用するなど、連携により業務の効率化を実現します。
RVT形式のデータ出力にも対応しています。

BIMデータの国際標準フォーマットである IFC 形式や、BCF 形式のデータにより
他の BIMソフト間とのやり取りも可能です。